

令和3年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1)目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査期日 令和3年5月27日(木)

(3)調査対象 小学校第6学年児童
中学校第3学年生徒

(4)調査の内容

I 教科に関する調査(小学校:国語、算数 中学校:国語、数学)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

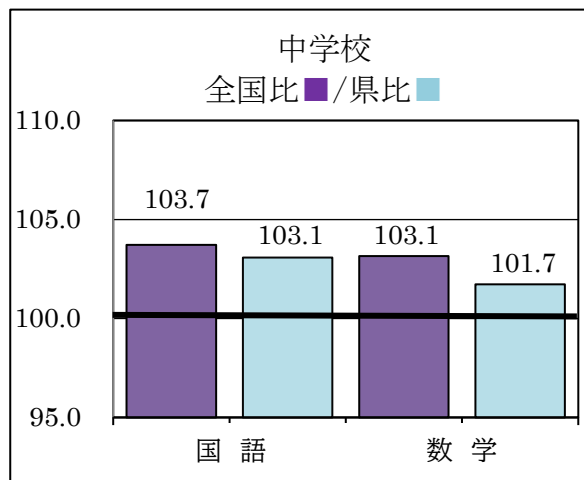
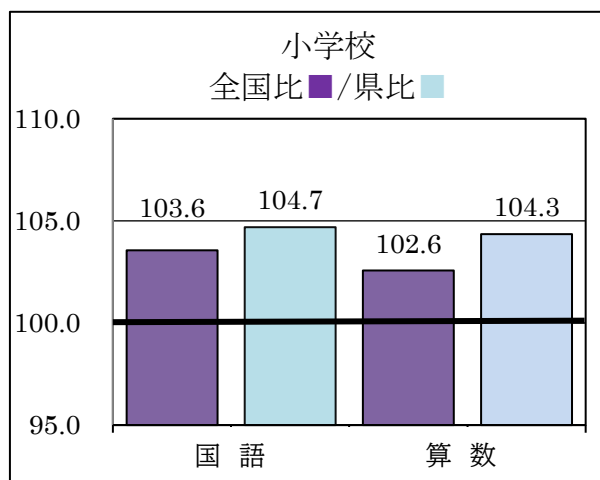
II 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- A 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)
- I 学校に対する調査(学校質問紙)

2 教科に関する結果

(1) 山口市と全国・県の各教科平均正答率の比較

全国・県の平均正答率を100として、各教科における本市の結果(指標)をグラフで表しています。



○ 各学校や児童生徒の日々の取組の成果として、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学において全国・県平均正答率を上回る結果となっています。特に、小学校の国語と算数は、県比を4ポイント以上、上回る結果となっています。領域別に見ても、小学校・中学校ともに、全ての領域において全国・県平均正答率を上回っていました。

また、無回答率も、概ね全国・県を下回り、特に中学校でその傾向が顕著であり、難しい問題にも粘り強く取り組んでいる児童生徒の姿が浮かび上がってきました。

(2) 成果と課題

各教科の調査問題における解答の結果について、本市における傾向をまとめています。

- ◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
- ▼…本市の正答率が50%以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の3点でまとめています。

- ①…児童生徒の解答傾向
- ②…解答結果の考察
- ③…学びのポイント

- ◎目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えること。(1の一)
- ◎目的や意図に応じ、資料を使って話すこと。(1の三)
- ▼目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること。(2の三)
- ▼目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。(2の四)

※ (1の一)などは問題番号です。

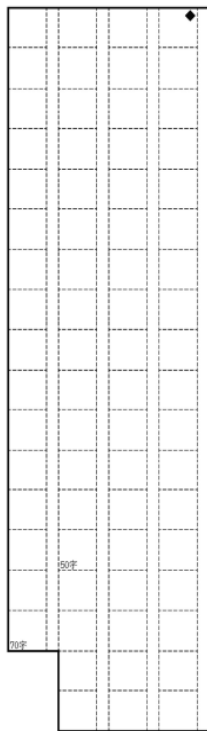
<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語2の四 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。 —

正答例

面ファスナーはしっかりとくつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70字)

【市正答率31.1%】
 (全国正答率29.7%)

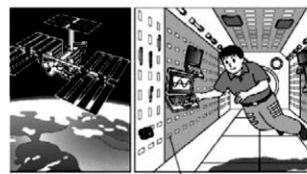


※左のげんこう用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

- 〈条件〉
- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。
 - 「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 五十文字以上、七十文字以内にとめて書くこと。

また、しっかりとくつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



面ファスナー
国際宇宙ステーションとその内部

四 相川さんは、「資料」を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

2

? 国際宇宙ステーションの中での使われ方については取り上げて書いているが、面ファスナーのよさについて書かれていない誤答が44%見られました。

Q 目的に応じて必要となる複数の情報を見付け、分量を考えながら要約することに課題が見られます。

! 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして文章の内容を短くまとめることです。

文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要なキーワードを選び、内容を端的に説明することが大切です。授業では、どの言葉がキーワードとしてふさわしいか考えさせる活動や自分が書いた要約文を推敲の観点や友達の考えと比較し、よりよい要約文に推敲する活動を大切にします。

- ◎速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること。[1]の(2)
- ◎棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。[3]の(2)
- ▼データを二つの観点から二次元の表に分類整理すること。[3]の(3)
- ▼小数を用いた倍についての説明を、基準量を1として言葉や数を用いて記述。[4]の(3)

※[1]の(1)などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 算数3 データを二次元の表に分類整理することができるかどうかをみる。—

3

(3) まず、読書が好きかどうかについて、図書室で本をよく借りているかどうかについて、2つの質問の結果に着目しました。

質問1 「読書が好きですか」	
はい ……	171人
いいえ ……	18人
質問2 「9月に図書室で5冊以上借りましたか」	
はい ……	61人
いいえ ……	128人

2つの質問の結果について、下の表に整理し直すことにしました。

		9月に図書室で5冊以上借りましたか		合計
		はい	いいえ	
読書が好きですか	はい	①	②	③
	いいえ	④	⑤	⑥
合計		⑦	⑧	189



読書が好きなのは171人もいるのに、9月に図書室で5冊以上借りた人は61人しかいませんね。



読書が好きなのに、図書室で本をあまり借りなかった人は何人くらいいるのでしょうか。

「読書が好きですか」に「はい」と答えていて、「9月に図書室で5冊以上借りましたか」に「いいえ」と答えている人は、114人いることがわかりました。

「114」は、表のどこにあてはまりますか。①から⑧までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

正答例

(正答) ②

【市正答率 64.1%】

(全国正答率 67.5%)



データを二つの観点から分類整理する方法を知ることに課題が見られます。



縦、横の項目の一方の欄のみを捉え、両方に当てはまる欄を読み取れずに、③と解答している誤答が8.6%、⑧と解答している誤答が、9.6%見られました。



データの活用については、棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができています。また、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することには課題があります。そのため、身の回りの事象について、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察するために、どのようなデータがあれば比較しやすいかを見通しをもって考察することが大切です。

- ◎文章の構成にどのような工夫があるかを捉えること。(2)の二)
- ◎相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。(4)の三)
- ▼話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えること。(1)の三)
- ▼文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと。(3)の四)

※ (1)の一)などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

－ 国語1の三 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える－

正答例

本田さんが、次の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山下さんの質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからです。

【市正答率55.3%】(全国正答率57.1%)

三 西中学校の大野さんの発言⑥のあとで、参加者の一人が発言します。あなたは、誰がどのようなことについて発言するとよいと考えますか。また、そのように考えたのはなぜですか。本田さん、石川さん、山下さんの中から一人を選び、⑦の参加者を選んでください。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「話し合いの一部」の①から⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいのかを書くこと。

条件2 条件1のように考えた理由を具体的に書くこと。

話し合いの一部

1

① 各校の取り組みについて、質疑応答に入ります。今日は、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。地域清掃活動を活性化させるために、他校に聞きたいことはありませんか。
第一中学校 本田さん(司会)

② 第一中学校に質問があります。担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化したのですか。
青空中学校 山下さん

③ 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることによって、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の方と一緒協力して取り組むことができました。
第一中学校 石川さん

④ 一人一人が責任をもって活動するようになったということですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。
第一中学校 本田さん(司会)

⑤ はい。ありがとうございます。青空中学校では、生徒だけで清掃活動を行っていますが、今後は地域の方と合同で行うことも検討してみたいと思います。そこで、もう少し質問したいことがあります。第一中学校では、地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてくださいませんか。
青空中学校 山下さん

⑥ 西中学校でも、地域の方との合同の清掃活動を考えたいと思います。また、実施回数も見直そうと思うのですが、回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方がどう変わったのかを、青空中学校に質問したいです。
西中学校 大野さん

話し合いのやりとりを踏まえ、誰がどのようなことについて発言すればよいのかを指摘することはできていますが、そのような発言をする理由を具体的に示すことができていない解答が27.4%見られました。

話し合いの話題や方向を捉えて、発言の理由を考えることに課題が見られます。

話題や展開を捉えながら話し合うためには、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識するように指導することが大切です。その際、ICT機器を活用して話し合いの様子を動画で記録し、発言の仕方や内容を振り返るように指導することも効果的であると考えられます。

また、国語科で育成するこうした言語能力については、各教科等における話し合いを取り入れた言語活動の充実資するものとなるよう、教科横断的な視点から教育課程の編成を図ることも大切です。

- ◎与えられたデータから中央値を求めること。[5]
- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること。[6]の(1)
- ▼事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。[7]の(2)
- ▼ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出すこと。[9]の(3)

※[1]の(2)などは問題番号です。

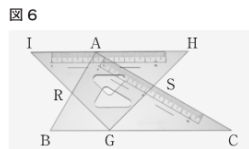
<解答結果から見られる学びのポイント>

— 数学[9](3)平行線や角の性質を基に、図形を考察すること(三角定規)—

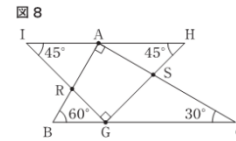
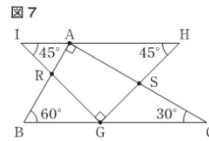
9

(3)二人は、左に動かす三角定規を、斜辺を底辺としたときの高さが△ABCと等しい45°、45°、90°の三角定規に変えて、重なったところにできる四角形について考えることにしました。

右の図6のように、45°、45°、90°の三角定規を△GHIとし、辺ABと辺IG、辺HGと辺ACの交点をそれぞれ点R、Sとすると、四角形ARGSができます。



点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるように、△GHIを左に動かしたとき、二人は、四角形ARGSが長方形にならないと考え、次のような図7、図8をかきました。



二人は、図7、図8で、四角形ARGSが長方形にならないことから、四角形ARGSがどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「△GHIを動かすと四角形ARGSの4つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「∠RASと∠RGSの大きさはそれぞれ90°で変わらないね。∠ARGと∠ASGの大きさはどうかな。」

△GHIを動かしても、四角形ARGSの∠ARGと∠ASGの和はいつでも180°になります。このほかに、∠ARG、∠ASGの大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

正答例

- ◎∠ARG、∠ASGのそれぞれの大きさは変わらないことを解答しているもの。
(∠ARGの大きさは変わらないこと、∠ASGの大きさは変わらないことのいずれかを解答しているものを含む。) 【市正答率 27.9%】
- ◎∠ARG=105°であり、∠ASG=75°であることを解答しているもの。(全国正答率 28.8%)



平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ、説明することに課題が見られます。



角の大きさに着目できずに解答しているものが35.6%、無解答が25.7%見られました。



ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができるかどうかを見る問題です。「いつでも成り立つ」という言葉の意味を理解することができず、角の大きさに着目できない解答が多く見られました。また、説明の見通しが立てられず、無解答としてしまうものも多く見られました。数学の授業において、「一般化」する場面を、生徒同士の対話や協働的な活動の中で、意図的に仕組む機会をできるだけ多く設定することが大切です。

3 生活習慣や学習環境等の結果

◎…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

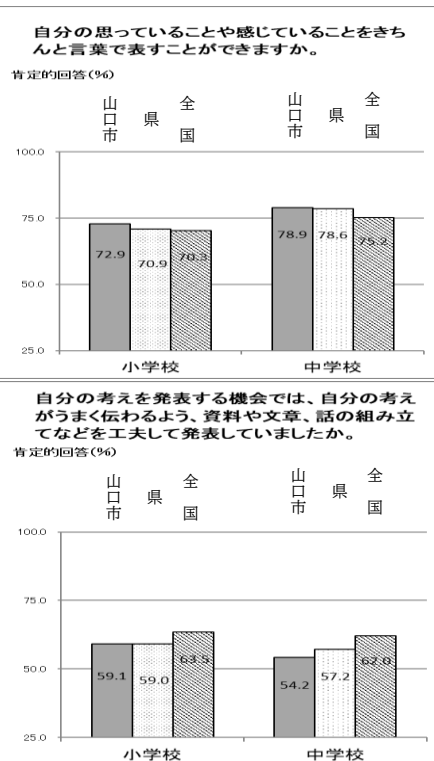
◎自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すこと

▼自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表すること

「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」と回答した児童生徒は、小学校で72.9%、中学校で78.9%と、全国・県平均を上回る結果となっています。

一方、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表」していると回答している児童生徒の割合は全国・県よりも少なくなっており、自分の思いを言葉で表すことはできるが、より分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られました。また、この項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

どの教科においても、論理的に考える力を養い、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが必要です。

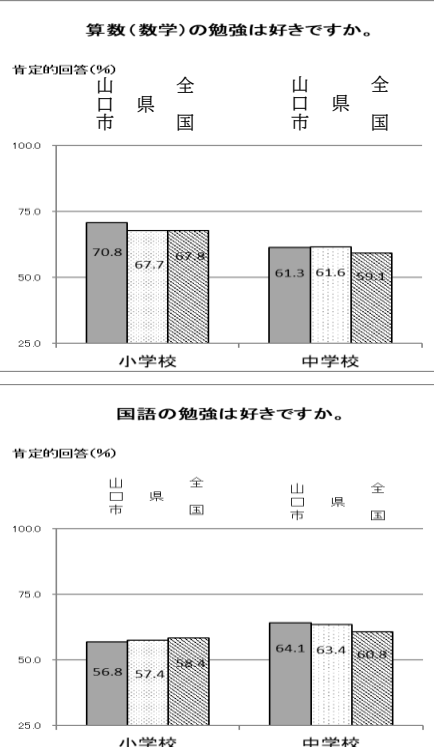


◎教科に対する興味・関心

「算数・数学の勉強は好きです」と回答した児童生徒は小学校で70.8%、中学校で61.3%と、全国平均を上回る結果となっています。特に、小学校では年々その傾向が強くなっています。中学校でも、「数学の授業で学習していることを、普段の生活の中で活用できないか考える」生徒の割合は増加傾向にあります。

また、「国語」についても、全国・県と同程度もしくは、それ以上の数値となっています。

中学校の「国語の授業の内容はよくわかりますか」や、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」といった授業の理解度に関する質問に対しても、肯定的に答える生徒の割合が年々増え、全国・県と同程度かそれ以上の割合を示しており、教科の平均正答率にもつながったと考えられます。



▼携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について

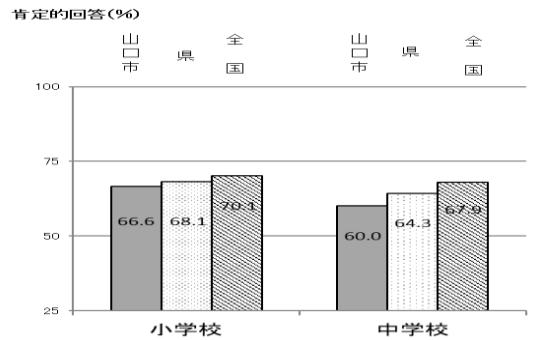
「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に、肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校が66.6%、中学校が60.0%といずれも全国・県を下回っています。

また、同じ質問の中で、「携帯電話・スマートフォンやコンピューターは持っているが、約束はない」と回答した児童生徒の割合は小学校が13.9%、中学校が24.9%と全国・県を上回る結果となっています。

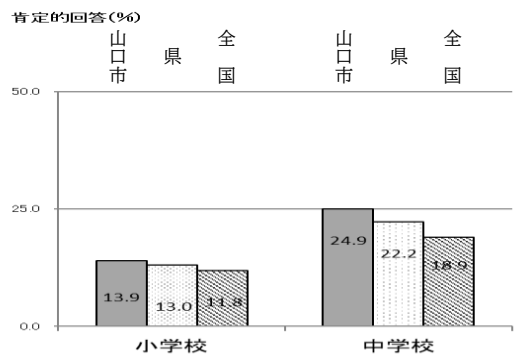
デジタル社会の進展によって、児童生徒が携帯電話・スマートフォンやコンピューター等のデジタル機器に触れる機会も増えてきました。

デジタル機器の使い方について、学校と家庭が連携して情報モラル教育を推進していくことが喫緊の課題として浮かび上がってきました。

携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



携帯電話・スマートフォンやコンピューターは持っているが、約束はない。



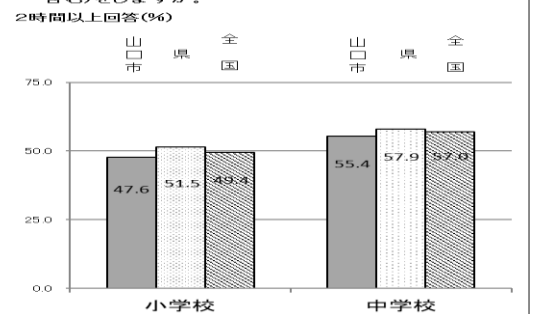
◎1日当たり、テレビゲームをする時間

「普段、(月曜日から金曜日)、1日当たり、どれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」という質問に、2時間以上と回答した児童生徒は、小学校で47.6%、中学校で55.4%と全国・県をやや下回る結果となりました。

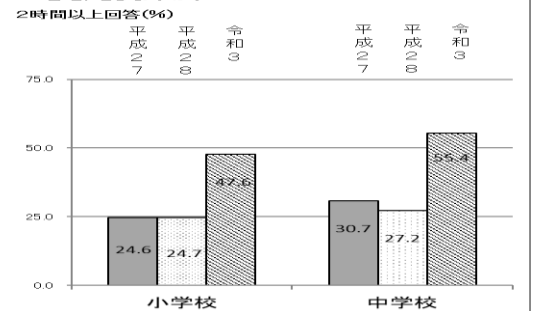
また、テレビゲームをする時間が短い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

全国的な傾向として、テレビゲームをする時間は年々増加しています。本市においても、過去(平成27、28年度)のデータと比較すると、その傾向が顕著に現れていました。

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



◎道徳の授業について

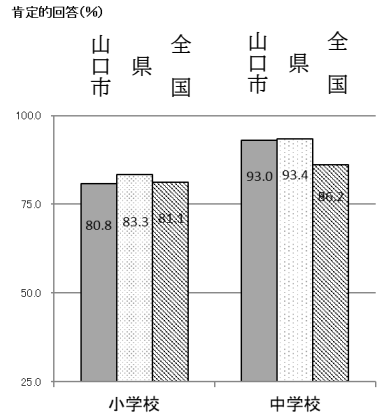
中学校の道徳の授業では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動」が年々増加傾向にあり、全国を大きく上回っています。小学校においても、80%を超え、全国・県と同程度の割合を示しています。

学校質問紙においても、「特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか」の質問に、小学校で72.7%、中学校で82.4%が「よくしている」と回答し、学校全体で、道徳の授業の改善に努めている姿がうかがえます。

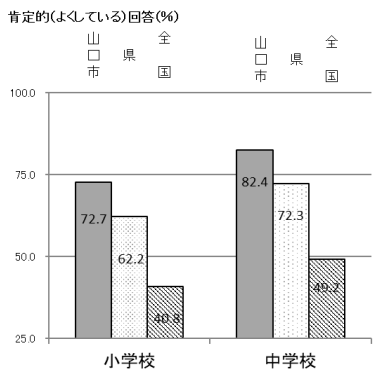
特別の教科 道徳では、「考え、議論する道徳(多様な考え方や感じ方と出会い、交流し、主体的に自分との関わりで考える授業)」をめざし、各学校で学習指導過程や指導方法の工夫に努め、児童生徒の心を育てています。

特に、話し合い活動において、1人1台端末を活用し、新たなスタイルで話し合いを活発化させる実践も増えてきました。

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



特別の教科 道徳において、児童(生徒)自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか。



4 課題解決に向けた各学校の取組事例

○ A 小学校では、主体的・対話的な学びの充実に向け、週2回、朝のフリートークを行っています。この中で、子どもが気づきにくいことや無意識で行っている姿を教師が見取り、価値づけることで、子どもの聞き方が変わり、学び合いの土台が創られていきます。フリートークの時間の意味を教室で共通理解し、自分たちがめざす学び合いを自覚することで、授業への取組も変容しています。また、温かい言葉で自分を受け入れてくれる仲間が周囲にいることへの安心感も生まれています。

○ B 小学校の一日は、登校後に Chromebook^{※1}を起動することから始まります。授業の振り返りを画面上で共有したり、複数の教室を Google Meet^{※2}でつないで話し合ったりする活動を日常的に行った結果、児童の表現力が伸びています。ICTに詳しい教員が使い方の事例を積極的に公開したり、授業のサポートに入ったりする体制が整っており、教員の ICT 活用力や授業力の向上につながっています。

※1 Chromebook: 山口市が使用している1人1台端末
※2 Google Meet: ビデオ会議ツール

○ C 小学校では、全教員で学習状況調査や授業中の児童の様子を分析し、めあてや振り返りの充実、必要感のある対話の設定等、授業改善が図られています。ICT 機器を授業に効果的に取り入れ、協働的な授業が仕組まれています。また、教科や総合的な学習の時間において、身近な自然や人と関わることで、児童が主体的になり表現力や自己肯定感が高まっています。

○ D 小学校では、全校集会や縦割り班活動等で児童の関わりを増やし、友達のよさや自分のよい所を発見できるような取組を行っています。教室での支持的風土[※]の醸成や学習規律の定着による温かな仲間関係の中で、安心して豊かな学び合いの授業が展開されています。また、教員同士で授業を見合う取組、自主的なミニ研修会が積極的に行われ、教員の授業力が向上しています。

※支持的風土: 安全で信頼に支えられた関係性

○ E 中学校では、授業力に優れたベテラン教員が多いという利点を活かし、若手教員の見本となるよう、OJT^{※1}の仕組みを整えています。また、ICTの活用に関しては、ベテラン教員と若手教員が、チーム・ティーチング^{※2}でペアを組むことで、授業を展開しやすくしており、教師の授業力も向上しています。さらに、3年前から、授業の振り返りを書く活動に力を入れ、習慣づけた結果、生徒の書く力が伸びてきました。

※1 OJT: 職場での実践を通じて業務知識を身につける育成手法のこと。
※2 チーム・ティーチング: 複数の教員が役割を分担し、指導する方式。

○ F 中学校では、朝学で「聞き取りマスター」「書き取りマスター」の時間を設定し、書くことを重視した取組を行っています。各教科においても、意図的に自分の考えを書く場面を設定しています。また、家庭学習のコツや工夫を上級生が下級生にプレゼンしたり、よい家庭学習ノートを紹介したりする取組を行い、家庭学習の質や意識を高めています。

○ G 中学校では、「やまぐちっ子学習プリント」を印刷して、職員室前に教科ごとに置いています。また、プリントが置いてある棚の側には、3年生の習熟度テストの範囲表が掲示しており、生徒が自ら学習したくなるようなレイアウトが施されています。また、この棚の付近に先生と生徒達をつなぐホワイトボードが設置されており、そこでは生徒が興味をもつ課題を通して教員とのやり取りが行われています。その他、校長室前には英語のクイズの掲示など、日々、生徒が学習に興味をもつような仕掛けが教員一丸となり、繰り広げられています。

山口市教育委員会は、今年度の成果と課題を踏まえ、日常的な学校訪問によって各学校の実態に応じたきめ細かな指導助言と支援を継続することで、今後も児童生徒の学力の向上と望ましい学習習慣の定着を図っていきます。

※ 調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「令和3年度調査」のリンク(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)から閲覧することができます。